

はじめに

坪井幼稚園における自己評価シートをもとに、本園における実情を分析した結果、概ね以下の通りとなった。

1. 園の教育目標

人権尊重の教育を基調とし、豊かな心をもった心身ともに健康でたくましい幼児をめざす。
○ 意欲・関心のある子ども
● 身近な環境（自然・社会）に、積極的にかかわり、それを生活に取り入れていこうとする幼児。
● 五感と全身を十分に使った、学びと遊びを通しての喜び、満足、充実を感じる幼児。
● 困難に負けず、最後までやりぬく幼児。
● 感じたこと、考えたことを表現する感性・意欲をもつ幼児。
○ よく考えて行動する子ども（態度）
● みずから健康で安全な生活をつくりだし（自立心）、友だちと親しみ支え合って生活する（連帯感）幼児。
● ことばで経験を表現し、ことばで理解しようとする幼児。
● 落ち着いて人の話を聞いたり、話したりしようとする幼児。
● 自分で考えてものごとじこくりに取り組む幼児。
○ 心の豊かな子ども
● 豊かな感性・創造性を持ち、素直に表現する幼児。
● 友だちとの生活や遊びのなかで、自分を表現し、相手も受け入れ認め合おうとする幼児。
● 自分らしさを発揮し、自信をもって生き生きと生活する幼児。

2. 平成23年度に取り組むことが必要な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。
--

3. 教職員による、評価項目に対する自己評価

評価項目	取組み状況
1、保育の計画性	本園の教育目標に従い、子どもを真ん中に据えた教育課程を編成するとともに、教育課程の説明会に全教職員を交代で出席させ、新教育要領の理解に努め、教育課程の編成にあたっている。子どもの発想を取り入れた計画や子どもが理解できるよう工夫も増えてきた。しかし、園の教育目標を常に意識し、お互いの保育を見せ合い、見直す努力がもう少し必要である。

<p>2、保育のあり方・子どもへの対応</p>	<p>毎年指導のあり方を反省し、計画に加筆、訂正を行い、子どもの実態に即した内容にするように努めている。すべての子どもがちょっと頑張れば出来るようになる課題を年齢に応じて設定し、挑戦させ、達成感と自信が持てるよう、全職員が担任という心がけを持っている。しかし、子どもへの言葉かけだけでなく、表情を読み取り、目に見えない心の育ちを見逃さない配慮が必要である。また、言葉かけだけでなく、絵カードや写真で表示したことが有効であった。教師らしい品位ある言葉づかいをするよう、お互いで注意し合う環境が必要である。</p>
<p>3、保育者としての能力や良識・適正</p>	<p>保育者の言葉かけが子どもに誤解して伝わることもあり、子どもの言動や表情に耳を傾け、場合によっては、絵カードや写真での説明も必要であった。常日頃から新聞をよんで気になった記事は、みんなに紹介できるようにした。芸術や文化に触れる体験をする前には、保育者が学ぶ姿勢を持ち、職員研修をする。言葉づかいについては、敬語がうまく使えない時があり、課題である。</p>
<p>4、保護者への対応</p>	<p>保護者と子どものことを話す時は、誤解が起きないように、電話ではなく、直接、会って話すようにしている。各クラスで月の目標を定め、毎学期ごとにクラス懇談会や個人面談をする。ただしい日本語、ていねいな言葉と敬語を用いるよう心がけているが友だち感覚の話し方にならないよう気をつけた。園での様子はクラスだよりを工夫し、保育参観、保護者不参加の行事は、DVDで撮影し、視聴できるようにしている。</p>
<p>5、地域の自然や社会との関わり</p>	<p>地域のふれあい農園に種植えや収穫に参加させていただき、お世話をさせていただいている方や地域の方々とのふれあいがあった。週一回、園外保育に出かけ、虫取りや木の実拾いなど四季を感じながらでかける。また、土手の坂すべりなどからだを使って自然の中で遊ぶことが多い。子どもが大好きな場所はプリント等で紹介した。マップの作成はしていないが、クラスだよりや園だよりで紹介する。保護者会主催のキャンプにも、親子での参加を勧め、協力している。</p>
<p>6、研修と研究</p>	<p>各種研修会や研究会に参加し学んだことを資料にまとめ、職員会議などにおいて提供し、共有化を図るようにしている。しかし、実技については、共有化できなかった。発達障害についての研修も深めた。</p>
<p>7、教育内容</p>	<p>幼稚園の教育目標に従い、教育課程を編成・実施しているが、子どもの発達や実態に応じ、内容や実施の仕方を変えることがあった。研修にも積極的に参加するよう促したが、行事等で出席できないこともあった。教職員全員で一人ひとりの子どもを育てるという考えで、小さな出来事も報告・連絡・相談しながら担任以外の助言にも耳を傾けることの大事さを確かめ合った。教育資質向上のために園内研修と園外研修にも参加した。時間確保が課題となった。</p>

8、地域の幼児教育センターとしての役割	園の教育方針や取組みを情報発信するように園だよりやクラスだよりに記載し、積極的に取り組んでいく。在園児以外の2歳児対象に年9回程、保護者と一緒に、来園してもらい、未就園児保育体験を行なっている。ただし、保育室が狭い為、人数が限られている。
9、安全管理	不審者情報が携帯電話に入るようにしている。不審者が園内に侵入しないように、鍵をかけている。保護者にも鍵の施錠徹底をお願いしている。危機管理マニュアルを作成し、職員に徹底している。しかし、鍵の施錠の確認がいる状況の時もある。また、園児の教育として、防犯訓練・交通安全教育・水難事故教育・火災・地震訓練等も実施。園舎・園庭・遊具の安全点検の徹底の必要性もみえてきた。
10、財務管理	公認会計士より適正に処理されているとの報告を受けている。

4. 総合的な評価結果

昨年度より、第2回目の学校評価・自己評価となり、具体的な内容評価もあったが、保育者によって差があった。自分の保育を見直す機会となった。保育ばかりではなく、施設面や環境整備面でも不十分であることを痛感した。自己評価の内容についても、もっと本園の保育が充実するよう、各保育者の課題を明らかにするため、具体的に評価できるような評価内容の検討を重ねる必要がある。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
情報公開の方法	現在、園だよりやクラスだより、参観日などを通して保護者への周知徹底には取り組んでいるが、更に進んだ情報公開として、一般の方が利用しやすいホームページなどへも毎月の行事公開をもっと充実させなければならないと思う。また、学校関係者評価委員会を組織し、情報公開に努力が必要である。
自己点検、自己評価	最低限の基本の項目を点検課題として挙げているが、本園で重視している心の育ちをはぐくむための教職員の課題をもっと深め、自己研鑽に取り組むよう点検内容を検討する。

6. 学校関係者評価委員会の意見

本園は学校関係者評価委員会を設けていないため意見は聞けなかった。